

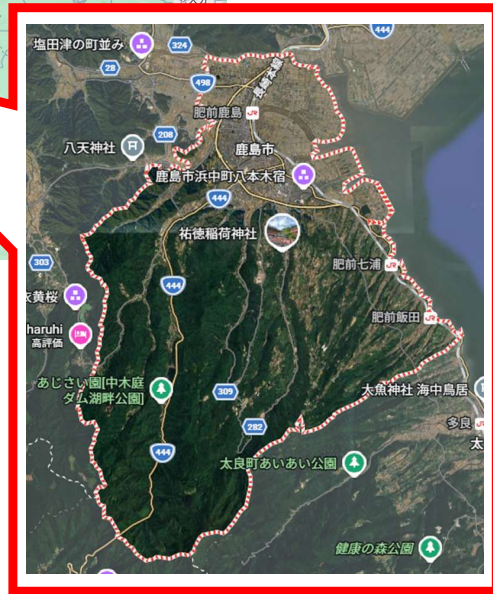
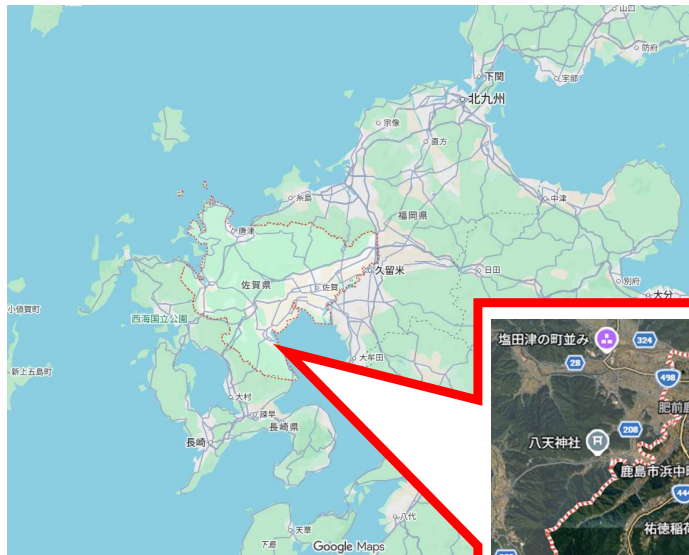
佐賀県鹿島市自然共生サイト

『ななうら 干潟とめだかの里』

～現在の取組と課題について～

令和8年8月31日(月)
鹿島市 ラムサール条約推進室
室井 利允

鹿島市について



人口:約27,000人(令和8年3月末現在)

観光:日本三大稲荷 祐徳稲荷神社
年間300万人の参拝客



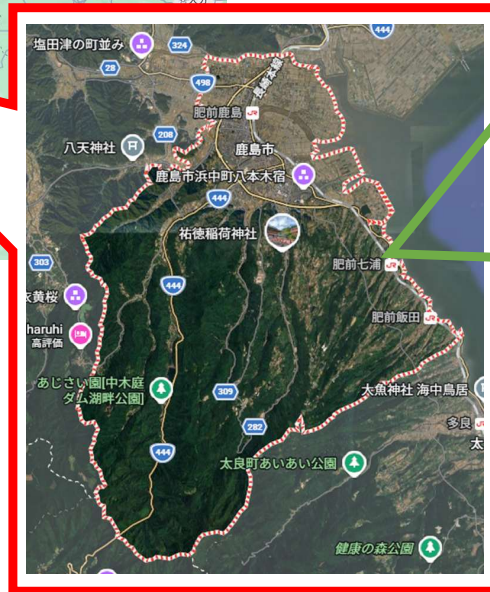
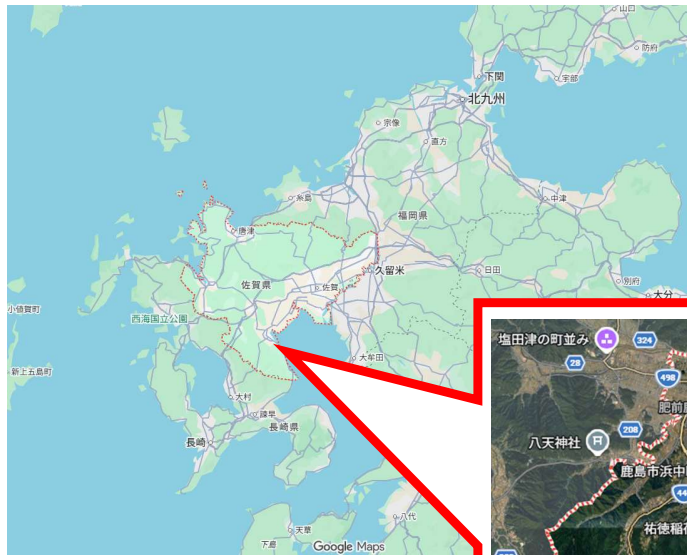
自然環境:西に県内最高峰の『経ヶ岳』
東は国内最大の干潟を有する
『有明海』が広がっている

山から海までの距離がとても近い

市内に**多様な環境**がある



自然共生サイト『ななうら 干潟とめだかの里』について



市内の多様な環境 を代表する環境

- ・約3haのサイト内で256種の動植物を確認
- ・うち**52種**が環境省レッドデータ掲載種

『ななうら 干潟とめだかの里』内での活動について



市内小学生に向けて
「干潟の生き物を探す」
をテーマにした干潟体験
授業の実施(鹿島市)

小学生が見つけた生物を記録
モニタリング調査として活用

道の駅鹿島の事業として
干潟体験を実施
伝統漁法である「むっか
け」、「すぼかき」も体験す
ることができる



鹿島ガタリンピックの開催
参加者約2,000人、観客動
員数約35,000人(うち海
外10カ国の留学生も参加)
参加希望が殺到するイベ
ント

『ななうら 干潟とめだかの里』内での活動について



道の駅鹿島の事業として
伝統漁法「たなじぶ漁」
の体験ができる
※たなじぶの管理は地元
が行っている



伝統漁法「うなぎ塚」の継
承と生物調査の実施
※地元およびまえうみ市
民の会で実施



令和8年8月9日(土)
生物が隠れることができ
るように石の投入と石を起こ
す(浮石にする)イベントを
実施。地元小学生等約15名
が参加

『ななうら 干潟とめだかの里』内での活動について



県の指定重要無形文化財
「音成の面浮立」の奉納

祭事前に清掃活動や水路
の泥上げを実施

+



40年前の農業用水路整備
事業の際に石積みの維持を
地元から要望

生物の生息環境維持へ



『ななうら 干潟とめだかの里』 令和8年度の計画

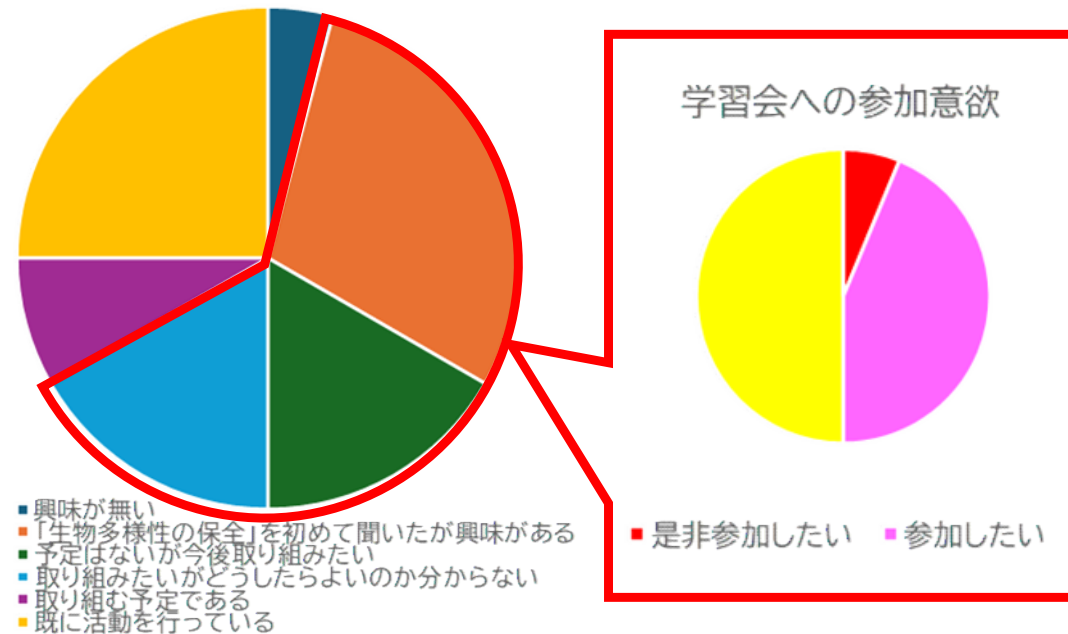
日付	内容
6/7	自然共生サイト SNS発信ワークショップ
7/11	まえうみ市民の会主催 環境フォーラム 「山と海を結ぶ魚たち～魚が教えてくれる本当の川～」
8/9	道の駅かしま めだかの楽校主催 有明海の生物を守るチャレンジデー(石の投入、浮石作りイベント)
9/19	めだかの楽校 里山生物探し(市内小学生対象)
10/4	干潟で学ぶ「ガタふみ体験」&生物多様性勉強会(企業対象)

その他年度内実施予定

- ・自然共生サイト案内看板の作成
- ・説明ポスターの作成
- ・パンフレットの作成

干潟で学ぶ「ガタふみ体験」&生物多様性勉強会(企業対象)

R7実施 企業の生物多様性保全に関する意識調査結果



人的・経済的・技術的支援獲得のため、
まずは市内企業をターゲットとして
勉強会の実施

参加者募集

干潟で学ぶ
「ガタふみ体験」
&
生物多様性勉強会

日時 10月4日(日)
9:00~12:00

受付: 干潟交流館 2F学習室(8:30~受付開始)

会場 道の駅 鹿島

対象 生物多様性保全に取り組みたい
企業の皆様(先着30名)

参加費 無料

持ち物 ・汚れてもよい服装・着替え
・帽子・タオル・飲み物
※ガタ足袋の貸し出しあります

《プログラムの流れ(約3時間)》

1.干潟を知る(座学)

佐賀大学 農学系 農学部
生物科学コース 教授

とくだまこと
徳田 誠 先生

九州大学大学院修了、博士(農学)。九州大学助教などを経て現職。専門は生態学・昆虫学で、有明海地域の生物多様性の研究・保全に取り組んでいる。

主な著書は『植物をたくみに操る虫たち 虫こぶ形成昆虫の魅力』『玉川百科こども博物誌 昆虫ワールド』など。



申し込みはこちら



令和8年9月18日締切
定員になり次第受付終了

2.ガタふみ体験&生き物探し 3.有明海の生き物解説

お問い合わせ

鹿島市ラムサール条約推進室

TEL:0954-63-3416 Email:ramsar@city-saga.lg.jp



課題感と今後の期待について

●ゾーン毎の人の受け入れ体制の整理

→「干潟ゾーン」：人が多く来てほしい

→「めだかの楽校ゾーン」：人が多く来ると環境が荒れてしまう

●関係者の高齢化、活動の持続

→**活動人口**（作業や活動を一緒に行ってくれる人）の獲得

→企業支援の獲得

課題感と今後の期待について

●ゾーン毎の人の受け入れ体制の整理

→「干潟ゾーン」：人が多く来てほしい

→「めだかの楽校ゾーン」：人が多く来ると環境が荒れてしまう

●関係者の高齢化、活動の持続

→ **活動人口**（作業や活動と一緒にいてくれる人）の獲得

→ 企業支援の獲得



☆企業活動として生物多様性保全に取り組みたいが、
活動の『場』を持たない企業